

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600908		
法人名	㈱オフィス21		
事業所名	グループホームはなえみ		
所在地	帯広市東6条南13丁目1番地		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/017/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JievsvoCd=0174600908-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/017/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JievsvoCd=0174600908-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 5 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業は平屋建てで2ユニットを運営しており、各ユニットは、玄関横の渡り廊下でつながっています。付近には、小中学校や食品スーパー、ドラッグストア、クリーニング店、美容室等があり、利用者の方が買い物や髪カットに出かけたりします。町内会に入会しており、町内行事に参加しています。今年度は、新型コロナウイルス感染予防の為中止しましたが、例年であれば、中学校の職業体験の受け入れをしたり、近くの保育園の運動会や発表会の総練習を見に行ったり、他幼稚園の園児さんの訪問があったりと地域の方との交流があります。年1度の敬老会では、ご家族の方にも参加していただき、お祝いを行っていました。新型コロナウイルス感染予防をしっかりとしながら、月1度の行事や週1回の趣味の会等で、交流を兼ねてユニット合同で行ったり、利用者の方が喜んでいただける事を考慮しながら、職員が企画して行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームはなえみは、「利用者と家族の咲いた花のような笑顔の生活・・・」の文言を盛り込んだ理念の下、開設15年を迎えています。職員間に理念が深く浸透しており、明るく親身なケアで利用者支援に取り組んでいます。市の中心部から車で5分の住宅街にあり、地域住民や子供達との交流が盛んで、園児や児童とのふれあい、中学生の職業体験の受け入れなど、利用者は多種多様な人達と関わり合って生活しています。コロナ禍のため交流行事等は控えています。職員の趣向を凝らした毎月の行事や趣味の会は継続しています。一例として、忘年会は豪華弁当と、職員のキーボードやハーモニカの披露、仮装歌謡ショーで盛り上げています。趣味の会では百人一首やボーリング、年賀状の作成など、楽しい時間が心身の活性化に繋がっています。一人ひとりの日常を支える介護計画は、職員間で情報共有を十分にいき、具体的内容で立案しています。家族とも信頼関係を築いており、現状の健康管理のその先にある終末期ケアも希望に寄り添って支援しています。経験豊富な職員や子育て世代の職員も多く、それぞれの個性や力量を存分に発揮できるよう研修や業務体制を整え、利用者の笑顔ほころぶ安心生活を支えています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の壁に理念が確認できるように掲示しています。新人の研修時には、必ず理念にもとずいたホームの姿勢を伝えてます。常に理念を意識しながら、利用者の方とかかわれるようにしています。	開設当初からの理念には、地域密着型事業所の姿勢や事業所名の由来が盛り込まれており、職員間に深く浸透しています。年に一度、会議の場で確認したり、入職時研修でも理念の説明を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内清掃等に参加させていただき、ホームへの理解が深まっていると感じます。中学校の職業体験学習を受け入れていましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染予防の為に中止となり、中学生より励ましのメッセージをいただきました。	地域住民や子供達、各種ボランティアと盛んに交流しています。今年度は交流行事等は控えていますが、町内清掃に参加したり、地域高齢者の困りごとの相談に乗ることもあります。関わりのある中学生から利用者へ励ましのメッセージがあり、交流が続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事に参加したり、町内の方が避難訓練に協力していただいたり、利用者の方と触れ合う機会を通じて、理解が深まっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染予防の為、書面会議としています。すべてのご家族に施設状況の報告と返信用紙を送り、ご返答をいただいています。いろいろなご意見や感想をいただき、ご家族様の気持ちに気づかされたり、励まされたりし、サービス向上にいかしています。	家族や地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員等のメンバーで定期的に開催しています。今年度は書面会議として、事業所や利用者の現状、防災等を議題に挙げています。メンバーと全家族に議事録を送付し評価を得て、特に家族の意見を聞き取る新たな機会となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡を取っています。事故があったとき等、市に報告し、助言等をいただいています。	新型コロナ感染症対策では随時情報共有を行い、事故報告などの提出書類は持参して説明し、助言を仰いでいます。地域包括支援センターとも相互に協力関係を築いており、事業所内の重要研修の講師を依頼しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて、意見を出し合い、年2回の研修で、身体拘束とはどのような事か、基礎的な部分の確認と、自分のケアの状況が振り返られるように取り組んでいます。利用者の方の状況により、玄関の施錠の開放に取り組んでいます。	指針を作成し、3ヵ月毎の委員会を開催しています。勉強会では事例を含め、身体拘束に係る内容の理解を深めています。日常ケアで困っていることは会議や研修上で話し合い、職員のストレスの軽減や不適切ケアに至ることがないように取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、どのような行為が虐待に当たるのかの基礎的な事を確認しています。職員が利用者の対応で不安やいきなりを感じていないか、管理者は職員とのコミュニケーションをとりながら、助言をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての外部講師による研修を予定しています。利用者の中で、制度を利用されている方がいたので、全職員が制度について知識を持てるようにしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の重要事項の説明には、十分に時間をかけて行い、ご家族の要望をお聞きして納得いただいているから署名捺印をいただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にお聞きしたり、電話で日常の報告をした時にお聞きしたりと、ご家族の方が言いやすい環境になるように、コミュニケーションをとっています。	コロナ禍の対応として、窓越しや玄関先での面会、またリモート面会の準備も進めています。写真を多用した通信を毎月送付し、電話や面会時に利用者の様子を伝えながら家族の意向や要望を聞き話し合っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がよりよく働ける環境づくりをしています。子育て世代が多く、子供の体調、学校行事等での休み希望等、柔軟に対応しています。	各職員は、行事や趣味の会などの担当を分担してアイデアを出し合い、日々のミーティングや業務の中でも積極的に発言しています。今年度は、役職者会議以外は三密を避け、文書回覧に変えています。次年度は運営者が出席した定例職員会議を開催したいとしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の動向は、常に代表者に報告し、職員の能力や職場環境について話し合い、職員一人一人に合わせた仕事配分や条件をその都度見直しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように調整したり、無資格の職員には、初任者研修を受けられるように助成し、資格取得を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同じ町内会のグループホームと災害時の協力支援の契約を結んでいます。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し、本人の要望をお聞きし、入居前の情報として職員間で共有し、その方らしく過ごせるように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事や要望を、時間をかけてお聞きし、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人の状況を詳しくお聞きし、求めている事を見極め、必要なサービスを受けられるように、他のサービスを含めて検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	献立の相談をしたり、食事の配膳や掃除、洗濯物たたみ等、一人ひとりができる事や役割的な事を見つけ一緒に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、本人の様子を報告したり、一部の行事や通院等に同行していただく等、協力していただきながら、ご本人を支える関係性を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご親戚、ご友人と、面会の対応や電話の取次ぎ、手紙のやり取りの支援を行っています。利用者の方がやりたいと思っている事は、実現できるように配慮しています。	面会に制限はありますが、電話や手紙、年賀状で友人など親しい人たちとのやり取りを支援しています。馴染みの美容室の利用を継続し、感染症対策に留意しながら可能な支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通じて交流をしています。トラブルがある時は、席がえをしたり、気分転換になれるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何時でも、連絡をいただいた場合対応しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話等から、その方の思いをくみ取り、思いが実現できるように努めています。言葉での表現が難しい方は、それまでの生活歴やご家族からの意見をもとに、その方らしい生活ができるように検討しています。	自分の気持ちや希望を表現できる人が多く、記録に残しています。困難な場合は、家族に相談したり、その時々表情や仕草から好き嫌いを理解し、また、本人が選択できる方法を取り入れ把握できるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で聞き取りしたり、本人やご家族から聞いた事を記録に残し、全職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日常の細かな変化を記録し、全職員が把握できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でモニタリングし、それぞれの意見も反映させながら、介護計画を作成しています。	介護計画の作成は、日々の記録を基にモニタリングし、カンファレンス(今年度は書面)で協議し、実践可能な計画作成に努めています。定期の作成は6カ月で、症状の変化に即し、利用者、家族、医療関係者の意見等を反映し、個別の自立を支える計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化を記録に残し、職員間で情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化や要望に対応し、その時に必要な支援ができるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園に行ったり、美容室や買い物に行ったりと、施設内だけでなく地域にある資源が利用できるように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療提携している医療機関で月1回の往診があります。週1回の訪問看護師の訪問があります。他の医療機関に受診するときは、ご家族の希望により職員が同行したり、日常の様子を手紙に書き、スムーズに受診ができるように支援しています。	本人と家族の希望の受診先を選択できます。協力医療機関の月1回の内科と必要時の歯科医の訪問診療、週1回の訪問看護を導入し、健康支援体制を整えています。かかりつけ医や他科受診は職員と家族が協力しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回訪問し、利用者の身体状況を確認していただき、相談ができます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要な情報を速やかに提供しています。医療機関、ご家族とも連絡を取りながら、退院後の受け入れ準備を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針の説明を行い、同意をいただいています。本人、ご家族の希望により、医療機関と訪問看護の協力で、看取りにも取り組んでいます。	重度化や終末期の在り方について、入居時や状態の変化に応じて話し合っています。重篤時では主治医の判断と説明の下、本人、家族の希望の支援を行っています。看取りケアの経験を重ねており、主治医や看護師、職員の良い支援で安心できるよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、普通救命講習に参加し、必要な知識を身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地震、火災、風水害を想定し、避難訓練を行っています。	今年度は、職員と利用者のみでの参加で5月と12月に昼・夜を想定し、地震と火災の避難訓練を行っています。課題であった各ケア場面の想定も加えて行い、事後の気づきを共有しています。連絡網や備蓄品も確認しています。	水害想定訓練を実施していますが、避難場所などに関してさらなる検討の意向を示していますので、地域情報や運営推進会議等を活用しながら、その取り組みに期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさや言葉遣いに気を付けて対応しています。	利用者の人格尊重を謳った理念の下、OJTを活用し接遇面の確認をしています。名前はさん付け、入浴時では希望の同性介助に対応しています。選挙の付き添いも本人の希望により支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から思いを聞き取る事や選択肢の中から自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースで希望に沿うように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容から、外出時のおしゃれ等、その方らしさを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、季節感を大切にし、利用者の方のリクエストも交えて職員が考えます。食事の下ごしらえや下膳等、できる事を一緒に行っています。	利用者は主体的に食事作りに参加しています。メニューに好みや食べたいもの、旬の食材を取り入れ美味しい食事を提供しています。季節の行事食でも職員の手作り料理が好評で、時には弁当やピザ、専門店のカレーをテイクアウトするなど、満足感のある食事を工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェックをしており、摂取量の把握をしています。食事の形態等、その方に応じた対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声をかけ促しています。必要に応じて、歯科往診を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要に応じて、トイレ誘導したりし、トイレでの排泄を支援しています。	チェック表の活用や本人らしいサインを見逃さず、職員が連携して二人介助も行い、トイレでの自然排泄を支援しています。個々の状況に応じた対応により、紙パンツから布パンツに移行できた事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品等を取り入れ、自然な排便を促す取り組みをしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	希望があれば、すぐに対応できるようにしています。入浴拒否がある方は、声のかけ方やタイミングを工夫し、納得して入浴できるように支援しています。	毎日入浴できる環境を作り、拒否のある人も、随時誘うことでタイミング良く入浴につながり、声掛け等の工夫をしています。入浴方法などは個別に聞き取り、入浴剤や音楽、1対1の会話で楽しい入浴を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や物音、湯たんぼや加湿器等、その時の状況により対応し、心地良く安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、服薬変更等がすぐにわかるように対応しています。薬内容のファイルは職員がすぐ確認できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や趣味の会を行っており、皆さんが楽しめる事を企画しています。お誕生日には、その方の希望に応じ、個別に対応しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、美容室、選挙、外食等、本人の希望に沿って対応しています。	例年は花見や紅葉狩りなど行事的外出も多彩に企画しています。今年度は三密を避けながらの駐車場でバーベキュー、ベンチでの外気浴や花壇の花を見たり、周辺の散歩や近隣公園の桜を見に行ったりと、戸外で気分転換ができるよう機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して、多額でなければ、持っている方もいます。ほとんどの方は、事務所で預かっています。行事等で出かけた先で買い物をしたりし、自分で選び購入する大切さを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、速やかに対応しています。趣味の会で、季節の便り(年賀状等)を作成し、ご家族に発送しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、清潔感を保ち、臭いにも配慮し、心地よく過ごせるように配慮しています。季節感を取り入れた飾り物を利用者と一緒に行えるようにしています。	共用空間は、温・湿度や換気、臭いなど気になる刺激に配慮し、清潔に保たれています。食卓のほか、テレビ周りにソファを配置し、それぞれの心地よい居場所が作られています。クリスマスツリーや雛飾りなど、その時の季節を味わえるよう環境作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席、ソファ席の位置等に工夫し、居心地の良い空間になるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や家族の写真を壁に貼ったりと、家庭にいる雰囲気になるように工夫しています。	壁には趣味の会で作った折り紙の雛飾りや塗り絵、家族写真を飾っています。クローゼットが備えられ、家具や仏壇、趣味の手芸用品や碁盤、CD等も手元に置き、今までの生活の継続や趣味を楽しめるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで手すりを設置。トイレ、浴室を明記し、必要に応じて、居室前にも目印をつけています。		